

都市のサイン計画に関する事例研究その2

日大生産工(院)

○椿 利文

日大生産工

日高 單也

日大生産工

田中 遵

1. はじめに

本研究は都市のサイン計画に関する事例研究を行い、都市のサイン計画のあり方を明らかにすることである。前稿（第42回日本大学生産工学部学術講演論文）では東京ミッドタウンにおいてサイン計画の実態調査を行った。

本稿では新たに六本木ヒルズ、赤坂サカスを事例として都市のサイン計画に関する調査を行い、サイン計画の現状を明らかにする。

2. 用語の定義

①サイン

利用者の誘導案内に関する情報や、施設などを利用するのに必要な情報を視覚的に提供しているものをサインの対象とする。

②移動用サイン

誘導・位置・案内・規制の4種類の内容を表示し、視覚的に利用者に情報を伝達しているものとする。

③商業サイン

屋外広告や店舗サインなど商業を目的としているものとする。

3. 調査対象地

3-1. 調査対象地の選定

六本木、赤坂周辺は日本有数の商業地であり性別、年齢、国籍、言語などを問わず、不特定多数の人々が毎日訪れる。また、多くの大使館やインターナショナルスクールがあり、国際色豊かな場所でもある。このような場所では、特にサインの役割が重要であると考えられる。

よって、本研究では、六本木ヒルズと赤坂サカスの外部空間を調査対象地に設定した。

3-2. 概要

（1）六本木ヒルズ

六本木ヒルズは1986年に六本木六丁目が東京都

から「再開発誘導地区」の指定を受けたことによる、再開発事業として17年の歳月をかけ、2003年にオープンした。六本木通り、環状3号線に隣接しており、広さ約11ha、総延床面積は約76万㎡、民間としては国内最大規模の再開発事業である。オフィス・住宅・商業施設・文化施設・ホテル・映画館・放送センターなどがある複合施設である。

（2）赤坂サカス

赤坂サカスは東京都港区赤坂5丁目の再開発複合施設として、2008年3月グランドオープン。2009年度グッドデザイン賞（公共・文化教育関連施設部門）を受賞した。

施設は低層部の商業施設棟と39F建ての中高層オフィス複合ビル「赤坂Bizタワー」、21階建ての賃貸住宅「赤坂ザレジデンス」、「赤坂BLITZ」、「赤坂ACTシアター」さらに中心に位置する1,800㎡のフラットな空間「Sacac広場」で構成されている。敷地は15m程の高低差があり、坂が多く、台地が東西に尾根上に走る形状である。

4. 調査方法

六本木ヒルズ、赤坂サカスの屋外空間を対象にサイン計画の調査を行った。そして、調査対象地におけるサインの機能種別と設置形式について分類を行う。分類方法としては、下記の(1)、(2)による分類を行う。

（1）サインの機能種別

・移動用サイン

①誘導サイン

施設等の方向を指示するサイン。矢印などで表示。

②位置サイン

施設名や場所名を示すサイン。名称などで表示。

③案内サイン

施設の案内や概要等を図解するサイン。地図などで表示

Study on Urban Sign Plan Part2

Toshifumi TSUBAKI, Tanya HIDAKA, Mamoru TANAKA

④規制サイン

行動を規制するサイン。注意、警告、禁止などの情報表示。

・商業サイン

①屋外広告

屋外で公衆に常時又は一定期間継続して表示されるサイン。看板、張り紙、広告塔など。

②店舗サイン

店舗名称を表示するサイン。

(2) サインの設置形式 (図1)

①自立型

床面や地面にアンカーなどで固定し、自立させる形式。

②壁付け型

壁面や柱に平付ける形式。

③突き出し型

壁や柱などから広間・通路方向に突き出して設置する形式。

④ボーダー型

開口上部や垂れ壁に、横に長く吊り下げる又は平付ける形式。

⑤吊り下げ型

天井や梁などから吊り下げる形式。

⑥可搬型

器具に脚部を設けて自立させ、必要時に持ち出して使用する形式。

5. 調査結果

調査方法に基づき六本木ヒルズ、赤坂サカスにおける調査結果を移動用サイン、商業サインごとに分類し表1、表2にまとめた。

5-1. 機能種別の調査結果

・六本木ヒルズ (表1)

六本木ヒルズにおいて、規制サインが突出して多く見られ、移動用サイン全体の54%を占めている。次いで、誘導サイン、案内サイン、位置サインの順でサイン数が多い。また、案内サインと位置サインは掲出数が同等であることがわかる。

商業サインは屋外広告が最も多く、次いで位置サインが多いことがわかる。商業サインはサイン全体の30.7%を占めている。

・赤坂サカス (表2)

赤坂サカスにおいて、規制サインが突出して多く

表1 機能種別サイン数 (六本木ヒルズ)

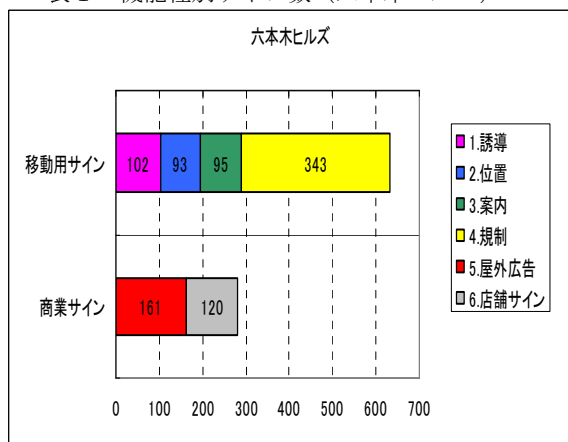


表3 設置形式サイン数 (六本木ヒルズ)

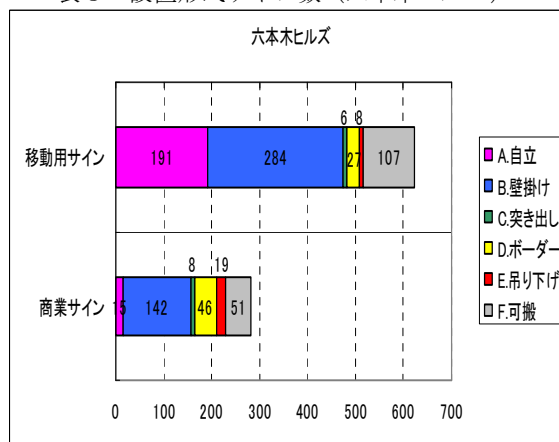


表2 機能種別サイン数 (赤坂サカス)

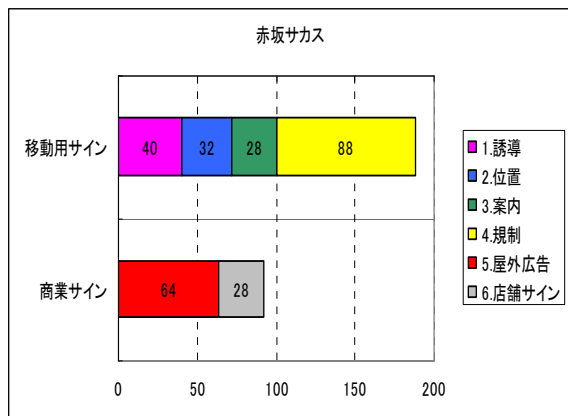
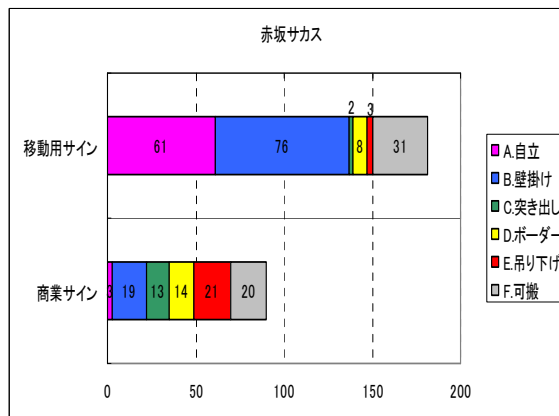


表4 設置形式サイン数 (赤坂サカス)



見られ、移動用サイン全体の46%を占めている。
次いで、誘導サイン、案内サイン、位置サインとなる。
また、案内サインと位置サインは同等の掲出数であることがわかる。

商業サインは屋外広告が最も多く、次いで位置サインが多いことがわかる。サイン全体で見ると、商業サインは32.8%を占めている。

5-2. 設置形式の調査結果

・六本木ヒルズ（表3）

六本木ヒルズにおいて移動用サインは、壁付け型が突出して多く、全体の45.5%を占めている。次いで、自立型、可搬型、ボーダー型とつづくが、吊り下げ型と突き出し型は極端に少なく、2つ合わせても全体の2.2%しかないことがわかる。

商業サインにおいても、壁付け型が突出して多く、商業サイン全体の50.5%を占めている。一方、突き出し型が最も少ないことがわかる。

・赤坂サカス（表4）

赤坂サカスにおいて移動用サインは、壁付け型が最も多い。一方、突き出し型、吊り下げ型は突出して少なく、両者は同等の掲出数であることがわかる。

商業サインは吊り下げ型、可搬型、壁付け型が同等の掲出数で多くあることがわかる。一方、自立型は突出して少なく、商業サイン全体の3.3%にしか満たない。

6. 考察

6-1. サインの機能種別の考察

六本木ヒルズ、赤坂サカスにおいて機能種別で最も多いのが規制サインであった。規制サインはサイン分布図（図2～5）より、施設の入り口やベンチ周辺などに多くみられ、単数で利用されているもの

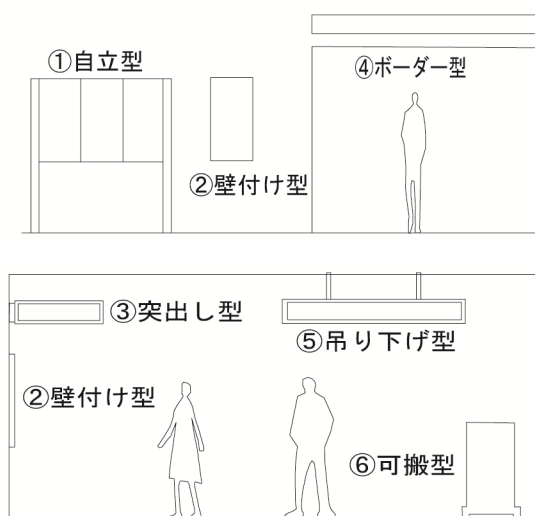


図1 サインの設置形式

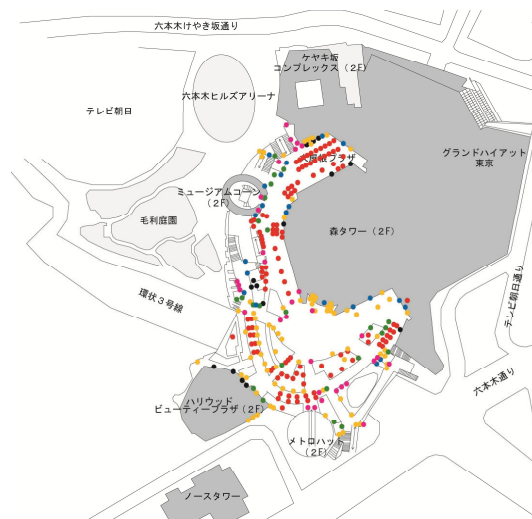


図2 サイン分布図
(六本木ヒルズ 66 プラザレベル)



図3 サイン分布図
(六本木ヒルズ 六本木通りレベル)

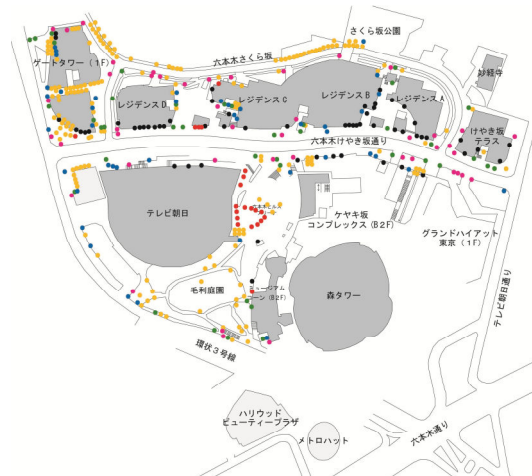


図4 サイン分布図
(六本木ヒルズ けやき坂通りレベル)

より、同じ場所に複数で利用されているものが多く、特定の場所に集中していることがわかった。この要因としては、商業施設は不特定多数の人が利用するため、事故や怪我を未然に防ぎ、安全性を確保することがとても重要である。そこで、安全性を確保するために規制サインを多く掲出していると考えられる。

商業サインは、六本木ヒルズ、赤坂サカスの両方において、サイン全体の3割程度であることがわかった。その中でも特に屋外広告が多くみられた。また、屋外広告は人が多く集まる場所や動線上、店舗の周辺に多く掲出されていることがわかった。

6-2. 設置形式の考察

移動用サインの設置形式別の割合は、六本木ヒルズ、赤坂サカスにおいて、同等の結果(表5)となり、同じ傾向にあるといえる。これにより、移動用サインの設置形式に関しては、場所や規模による違いは、ほとんど見られないことがわかった。サイン分布図より壁付け型は、店舗や施設の前に多くあることがわかる。また、壁付け型、自立型の2つを合わせると7割以上を占めており、移動用サインにおいて最も有効な形式として利用されていることがわかった。

商業サインは自立型や突き出し型が少ないことがわかる。この要因として、屋外広告は短期的なものが多いため、壁付け型や可搬型、吊り下げ型など設置が容易であるものが多く利用されているためと考えられる。

表5 移動用サインの設置形式別の割合

	六本木ヒルズ	赤坂サカス
壁付け型	45.5%	44.9%
自立型	30.7%	33.7%
可搬型	17.2%	17.1%
ボーダー型	4.3%	4.4%
吊り下げ型	1.3%	1.7%
突き出し型	1.0%	1.1%

7. まとめ

今回は六本木ヒルズ、赤坂サカスの外部空間を研究対象地として選び、サイン計画の実態を明らかにした。今後の課題として、六本木ヒルズ、赤坂サカス、そして、前項で調査した東京ミッドタウンの3ヵ所におけるサイン計画を比較・検討し、それぞれの場所における利点や欠点を明らかにする必要がある。また、利便性の良いサイン計画を行うために、どのような計画をするべきか考慮する必要がある。

[参考文献]

- 1) 国土交通省総合政策局交通消費者行政課、公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック、2002年
- 2) 武山良三、サインデザインハンドブック、日本サインデザイン協会、2004年
- 3) 田中遼、大塚真、日高單也、移動用サインと屋内広告サインとの混在環境が利用者に及ぼす影響、駅構内に於けるサイン計画の違いについて：交通公共施設のサイン計画に関する基礎的研究その2 日本建築学会計画系論文集、pp23-30、2005 11
- 4) 椿利文、都市のサイン計画に関する実例研究、第42回日本大学生産工学部学術講演会建築部会講演要旨、pp265-268
- 5) 六本木ヒルズHP、<http://www.roppongihills.com/>
- 6) 赤坂サカスHP、<http://sacas.net/>



図5 サイン分布図（赤坂サカス）